

平成23年5月13日

小牧市都市計画審議会
第1回議事録

都市建設部都市政策課

小牧市都市計画審議会議事録

1 平成23年5月13日 平成23年度第1回小牧市都市計画審議会が小牧市役所南庁舎本会議用控室に招集された。

2 出席委員は、次のとおりである。

野村嘉久	山本典男	山下智也
河田智成	稲山善彦	舟橋秀和
加藤晶子	小島倫明	川島公子
落合勝之	稲垣孝子	熊野弘
		(山田満代理)

3 欠席委員は、次のとおりである。

天野正基	鈴木義久	大塚俊幸
------	------	------

4 会議事件は、次のとおりである。

1 議事録署名者の選任

2 議案審議

議案第1号 尾張都市計画下水道の変更について

5 会議の傍聴人

なし

6 議案の説明者は、次のとおりである。

都市政策課、河川課

(午前9時55分開会)

事務局

皆さん、おはようございます。定刻より若干早いですが、委員の方、お揃いですので、都市計画審議会を開催したいと思います。

本日は、お忙しいところご参集を賜りまして誠にありがとうございます。

本日、天野正基委員、鈴木義久委員、大塚俊幸委員におかれましては所要のため欠席との連絡を受けておりますので、本日の出席委員は12名であります。従いまして、委員総数15名の過半数に達しておりますので、小牧市都市計画審議会条例第5条第2項により本会議は成立をいたしております。また、小牧市都市計画審議会運営規程第6条第1項により本日の会議は公開とさせていただきます。なお、審議会の議事録につきましては、情報公開コーナー、小牧市ホームページにより公開をさせていただきますのでよろしくお願い申し上げます。それでは、会の開催に先立ちまして、都市建設部参事よりご挨拶を申し上げます。

都市建設部参事

皆様おはようございます。早朝で公私ともお忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございました。今年度もよろしくお願いしたいと思います。今、県の情報等、新聞等にございますが、県のマスタープランで都市計画の見直しを今着手しているところでございます。また、はっきり決まれば、また市の方にも意見照会がきたりすると思いますが、そのときはまた、都市計画審議会の皆様方に色々ご意見をいただきながら進めてまいりたいと思います。また、本日、ご審議いただく議案でございますが、前回の審議会で報告させていただきました、「尾張都市計画下水道の変更について」の1件でございます。どうかよろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。挨拶と代えさせていただきます。よろしくお願いいたします。

事務局

続きまして、野村会長からご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

会長

皆さんおはようございます。本日はご多用の中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。本日の案件はご案内のとおり1件でございます。重要な案件でございますので、慎重にご審議をいただきますようお願い申し上げます。簡単ではございますがご挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

事務局

どうもありがとうございました。続きまして、議事に先立ち委員の交代がございま

したのでご紹介をさせていただきます。愛知県議会議員の交代に伴いまして、山下智也委員、小牧商工会議所副会頭の交代に伴いまして、鈴木義久委員、小牧警察署長の交代に伴いまして、山田満委員、小牧市区長会連合副会長の交代に伴いまして、落合勝之委員が新たに就任をされました。今後ともよろしくお願い申し上げます。なお、委員の皆様のお手元には、審議会委員名簿を配布させていただいておりますのでご確認をいただきたいと思います。

では、議事の進行につきましては、会長にお務めいただくことになっておりますので、野村会長に議長をお願いしたいと思います。野村会長、議事の進行をお願いいたします。

議長

これより、平成23年度第1回小牧市都市計画審議会を開会いたします。

「日程第1 議事録署名者の選任」を議題といたします。小牧市都市計画審議会運営規程第8条第1項により、会長において2名をご指名いたします。本日の議事録署名者を、河田智成委員、稲山善彦委員をお願いいたします。

続きまして、「日程第2 議案審議」に入ります。「議案第1号 尾張都市計画下水道の変更について」事務局より提案理由の説明を求めます。

事務局

はい、会長。それでは、議案第1号について提案理由とその内容の説明をさせていただきます。

議案書の1ページをお願いいたします。「議案第1号 尾張都市計画下水道の変更について」であります。下水道の都市計画決定につきましては、都市計画法第11条第2項及び同法施行令第6条により、処理場やポンプ場などの都市施設の種類、名称、位置及び排水区域を定めることとされております。

本市の公共下水道は、昭和48年に都市計画を定めたのが最初であり、近年では平成17年に計画の変更を行い、平成22年には都市計画区域の再編に伴う、名称の変更を行っております。

今回の変更は、近年、浸水被害が頻発しております小牧一丁目地内において、新たに大輪ポンプ場と向町ポンプ場を都市施設として定めることにより、当該地区の浸水被害の防除を図るものであります。この2つのポンプ場は、概ね5年に1回降る大雨に対して排水できる能力で計画をしております。

2ページの変更計画箇所をご覧ください。中央付近の小牧市役所の東側に赤色で、大輪ポンプ場と向町ポンプ場の位置を示しています。丸の中のPと示している位置であります。

次に、3ページの位置図で説明させていただきます。小牧一丁目地内の原川流域におきまして、平成12年の東海豪雨など近年5回の豪雨により、延べ30戸の浸水被害が発生しております。その内、緑色の2本線で示しております原川の南側に位置す

る向町ポンプ場排水区域内では延べ21戸で、原川の北側に位置する大輪ポンプ場排水区内では、東海豪雨に9戸の床下浸水被害がありました。浸水被害の発生原因は、豪雨になりますと一級河川原川の水位が上昇することにより、河川に排水ができなくなります。そうなりますと、この地区の低地にあたる場所、すなわち、ちょうどポンプ場の計画地あたりの地盤が一番低いところでありますので、この付近にだんだん雨水がたまってしまうからです。

本ポンプ場の排水先であります原川の改修計画によりますと、その計画高水位はこの地区の一部の道路や宅地の地盤よりも高く設定されており、豪雨の折には河川の水位が上昇することにより自然に排水することが困難となりますので、愛知県が行っております原川改修事業と同調して、原川の水位変動に対応した強制排水を行うためのポンプ場を原川の右岸と左岸にそれぞれ新設することにより、当該地区における治水安全度の向上を図ろうとするものであります。

4ページの図面をご覧ください。大輪ポンプ場の一般平面図です。赤色の線で囲まれた区域が大輪ポンプ場の位置であります。その区域の面積は、ポンプ場の管理道路用地を含め約700平方メートルであります。

次に、5ページの図面をご覧ください。5ページの図面は、向町ポンプ場の一般平面図です。同じく赤色の線で囲まれた区域が向町ポンプ場の位置であります。その区域の面積は200平方メートルです。

6ページの図面をご覧ください。この図面は、ポンプ場へ雨水を集めるための排水路の系統とポンプ場から原川への放流する位置とその排水路の大きさを表している図面であります。「ポンプゲート」とは、ポンプの形式のことでありまして、この2つのポンプ場の計画排水量は共に毎秒1トン未満という小規模でありますこと、また、土地の権利者に対し必要最小限の面積で協力をお願いしなければならないこと、さらには、経済性と維持管理性に優れていることなどを考慮して「ポンプゲート式」の採用を予定しております。図の左下にあります図面は、原川の現況の断面を黒色で、改修計画を赤色で示しております。改修後の流下能力は現在の3倍程度の能力になる予定です。

以上で、変更計画案の概要を説明させて頂きましたが、今回の変更案につきまして、地元関係者を対象といたしました説明会を今年の11月12日に行いました。ポンプ場の供用開始は平成29年度を予定していると説明したところ、早期に原川改修の事業進捗を図り、合わせてポンプ場も設置して欲しいと参加者から強く要望を受けていたところであります。

また、今年の12月には、それぞれのポンプ場の排水区域と計画排水量について、放流先の河川管理者であります愛知県の了解を得ております。

なお、本件につきましては、都市計画法第21条第2項の規定において準用する同法第17条第1項の規定に基づき、平成23年3月8日から3月22日までの2週間におきまして、変更案を公衆の縦覧に供したところ6名の縦覧者があり、同法第17条第2項の規定に基づき、1名から1通の意見書が提出されました。そのため、同法

第19条第2項の規定に基づき、その意見書の要旨を議案書の7ページから9ページにつけさせていただいております。また、参考資料としまして、意見書の内容に対する小牧市の見解を別冊の参考資料1として添付しております。

それでは、意見書の要旨と、それに対する小牧市の見解について、併せてご説明いたします。

お手元の別冊参考資料1の1ページをお願いいたします。左側には意見書の要旨を、右側にはそれに対する小牧市の見解をそれぞれ記載しております。

1つ目の大輪ポンプ場の排水区域及び排水能力の設定についてであります。大輪ポンプ場の排水能力に、隣接する合瀬川左岸第6排水区の雨水の流入を見込まないのであれば、ポンプ場の建設と同時に大輪区に流入して来ないような方策を講じるべきである。少し強い雨が降ると合瀬川の水位が上がるためか、隣の合瀬川左岸第6排水区の排水路がオーバーフローして大輪区に流れてくるため、我が家の前の貸家は、かなり頻繁に床下浸水しているのではないかと思います。オーバーフローして流入してくる雨水を大輪ポンプ場で排水できるようにしないと、お金を掛けて建設しても大輪区の浸水被害はなくなる。

これに対しまして、市の見解であります。大輪区においては、平成12年の東海豪雨では、1時間最大55ミリの降雨により9戸の床下浸水被害が発生しましたが、これ以降の1時間最大52ミリ（市の5年確率計画降雨）以上の降雨時においても、道路等が「冠水」している状況までであると認識しております。オーバーフロー、排水路から雨水が溢れることではありますが、この原因は、合瀬川の水位上昇と既設排水路の流下能力不足による排水不良と推察されます。上流区域（合瀬川左岸第6排水区）において、平成21年度に小牧原小学校校庭に容量733トンの雨水貯留施設を設置しました。さらに、平成27年度までに早苗公園に約1,300トンの貯留施設を設置する予定であります。また、当該箇所においては排水路の嵩上げ（遮水壁の設置）の実施を予定し、その他の対策の実施についても検討しております。このため、この対策を実施することにより、東海豪雨の高水位を想定しても当該箇所のオーバーフローが発生することはないと考えております。従いまして、合瀬川左岸第6排水区における雨水貯留施設などの対策の実施により、東海豪雨の高水位を想定しても大輪区に流入してこない方策をポンプ場の建設と同時に実施するため、現計画の大輪ポンプ場排水区域及び排水能力の設定は妥当と考えております。

次に、2ページをお願いします。大輪ポンプ場の排水先について、豪雨時に大輪ポンプ場から原川へ排水することは、自然流下では水路の壁の天端高を合瀬川の堤防と同程度にする必要がある。また、圧力管とする場合は、2Hルールを侵すことにならないか。についてであります。こちらの小牧市の見解といたしましては、大輪ポンプ場は、原川の水位が上昇して自然流下が不可能となった場合のみ運転するポンプ場であり、ポンプ場から原川までの水路はポンプ運転時には圧力管となります。この水路は、2Hルール、2Hルールにつきましては、右下のところに注1で示しておりますが、このルールを侵してはいない破線より上の位置に設置いたします。

次に、排水先が原川になっているため、ポンプ場からの排水路がとても長くなっている。すぐ横の河川堤防法面にある桝から合瀬川に放流するようにすれば合理的だと思うが如何か。であります。

これにつきましての市の見解といたしましては、ポンプ場付近の既設桝は、先に申し上げましたように対策を行なったうえで、今後とも合瀬川左岸第6排水区の自然放流施設として使用します。仮に、ポンプ場の排水を既設桝から合瀬川へ放流すると、ポンプ場からの放流水位は合瀬川の水位よりも高くする必要があるため、合瀬川左岸第6排水区の排水路の自然流下を阻害することになり、新たな樋門が必要となります。その樋門を設置する工事費よりも、原川の改修に合わせ樋門工事等を行う方が工事費の縮減が見込めることにより、原川を排水先としております。

次に3ページをお願いいたします。「原川の改修について」であります。大輪ポンプ場の建設は、原川の改修を待って実施するのではなく、計画決定後、速やかに整備を完了されたい。地元が反対しているわけでもないのに、全く進まない事業をポンプ場建設の前提にして欲しくない。との意見についてであります。愛知県が事業主体であります原川の改修に対する意見の箇所については、小牧市が回答できる立場ではありませんが、市の見解といたしましては、原川改修事業は、現在、愛知県により、合瀬川合流点から上流約460m区間の用地買収が進められております。先に説明させていただきましたように、市の雨水排水施設の整備を原川改修事業と同調して進めることにより、樋門等の工事費の縮減を図ることができます。都市計画決定後には、今年度中に下水道法と都市計画法の事業認可を取得し、事業に着手する予定であります。

次に「市民の安心、安全な街づくり」を着実に進めるために、原川の改修は、小牧市が都市下水路として進めるべきである。都市下水路であれば河川の場合より、ずっと狭い用地幅で改修できるとの意見に対しましては、河川は、治水上の重要性のほか、下水道にはない水辺や自然環境の創出など、都市の環境保全に大きな影響を及ぼす機能を有しております。原川を河川として整備することは、治水対策を進めながら、現在ある河川の空間を生かし水辺空間や動植物の生息・生育環境を形成・維持し、地域の環境整備に大きく寄与することとなりますので、市が都市下水路として整備する考えはありません。

以上が意見書の要旨とそれに対します小牧市の見解であります。小牧市としては、原川の改修計画は浸水対策からも地域の環境整備の観点からも、最優先で整備を愛知県に対してお願いしているところであります。なお、意見書提出者から「意見書の内容を正確に審議会委員の皆さんに伝えて欲しい。」と口頭でお伺いしております関係から、参考といたしまして意見書原文から個人情報等を削除したものを、別冊の参考資料2として添付しておりますので、ご確認いただければと思います。

以上、議案第1号についての説明とさせていただきます。よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

議長

ありがとうございました。提案理由の説明を終わらせていただきます。これより質疑に入ります。発言を許します。いかがでございますか。はい、どうぞ。

委員

ちょっとお尋ねしますが、確かに平成１２年度東海豪雨から１０年経過しているということで、ちょっと集中的な雨が降りますと、私どももすぐ「原川、大丈夫か」とここへ本当に心配がはしっていたわけですが、昨年１１月１２日に地元説明会を開いていただいたということですが、この説明会に対する呼びかけですね。例えば、どこの町内に回覧したとか。地元説明会というのは何についても、中々出席者が少ないですが、本当に命に関わる、ここ数日の集中豪雨についても各地で被害が出てますが、何戸に呼びかけて、説明会にどれぐらいの方がご出席いただいたか、参考までに伺わせてください。

事務局

はい。ただ今の委員の質問についてお応えいたします。昨年度におけます説明会におきましては、区長さんを通じた回覧により周知を図っております。対象としましたのは、寺浦区、向町区、大輪区、大井区の４区でございます。あと、実際に出席された方につきましては、今手元に資料がありませんが、区長さん、市議員さん等を含めて２０名程度だと記憶しております。以上です。

議長

はい。よろしゅうございますか。はい、どうぞ続けて。

委員

本当にもっとたくさんの方がご出席いただいて、市の方の説明が出来たら何よりかと思いますが、２０名ぐらいの出席。こうゆう会を持つというのは回覧で周知したということですが、その説明の内容ですね、これについて、その後また区の方には回覧で区民にご説明ということはしていただいていますね。

事務局

ただ今の質問につきましては、そういったことはやっておりません。

議長

よろしゅうございますか。他にご意見ありますでしょうか。はい、どうぞ。

委員

参考資料の２で意見書の全容があるけども、途中で「コンサルが現場を十分に調査したかどうか」とか書いてあるけども、コンサルはどこがうけました。

事務局

調査のコンサル担当の名前でよろしかったですか。

委員

はい。

事務局

株式会社日水コンというところでございます。

委員

現場調査自体は十分に行っているわけでしょ。

事務局

はい、もちろん行っております。

議長

他にご意見ありますでしょうか。はい、どうぞ。

委員

先ほどの委員のお話から関連して、その後の区民の皆さんに周知がされていないという事実に対して、ちょっと要望ですけども、今回、これに関してこうして審議会が開かれたわけですので、これを縁にというか、やはり区民の皆様への周知徹底が大切だと思うんですけども、ご検討願いませんでしょうか。いかがでしょうか。

事務局

はい、住民の方とにかく周知、説明していくかという点でございますが、今後、市の方としては、ポンプ場の設計に入るわけですが、そういったものがまとまりましたら、実際にそういった説明会というものはやっていきますので、すぐにではないんですが、数年後にはそういった形になると思われれます。

委員

はい、数年後ではやはり遅いのではないかなと思うんですけども、私もこちらの地域の方たちがすごく洪水で大変な思いされているのが伺っているんですけども、こうゆう方向になったということは、ホームページ等でお知らせというのも、もちろんこれからされていくかもしれませんが、やはり地域の説明会に来られなかったという方達のほうが多いので、意識のある方はおそらく区長さんとか出られた方に聞いてもらえらると思うんですけども、区民の皆様には、やはり何らかの形で早い時期にお知

らせできる範囲でいいですので、こうゆう計画があつて、やはりこうゆう風に皆様の生活を守っていくために市は動いているんだというお知らせをしてもらったほうがいいのではないかというふうに考えますので、今すぐ結論をというわけではありませんけれども、ぜひご検討をお願いして要望とさせていただきます。

議長

他にご意見ありますでしょうか。

委員

よろしいですか。ポンプなんですけど、現在、東海豪雨の関係で資料としては50ミリとか55ミリとか書いてありますけど、ポンプ自体の容量のマックスがどの程度まで排水できるのかということと。それに伴いまして、大輪区の側溝の工事、資料の中に原川の右岸第8排水区の中で側溝がたくさん改修されると思うんですが、これも同時期並びにもう少し早めに側溝の工事が進められるのかということと。私も前回、11月12日の説明会にお邪魔した際に、1つ市民の皆様の中でご意見がでた向町の原川を横断している橋の橋桁のことでちょっと色々ご意見が出まして。今現在も橋桁があつて道が原川から相当上へ上がっている状態に橋のところになっているのですが、現状の様な形なのか、もっと道路が高くなるのか、そのあたりのところを知りたいのですがよろしく願いいたします。

事務局

それでは、ただ今のご質問についてお応えいたします。まず1点目のですね、ポンプ場のポンプの実際の能力ということでございますが、議案書の6ページに先ほど説明させていただいたポンプゲートと書いてあるその下に大輪ポンプ場のほうですと毎秒0.95立方メートル、1分当たり57立方メートルと、これがいわゆるポンプの能力。この分を流せるポンプを付けるということでございますので大輪ポンプ場の能力としましては、これになります。向町ポンプ場のポンプゲートについては、もう一回り小さくて毎秒0.63立方メートル、1分当たり38立方メートルでございます。それから2点目のですね、排水路等の整備はいつ実施するのかというご質問ですが、こちらに限りましては、基本的にポンプ場を29年度供用開始ということで予定しておりますので、当然それと同時でポンプ場を作っても水が集まってこなければ効果が薄くなるわけですから、基本的には同時期までに排水路の整備も予定しております。それから3点目の向町のポンプ場のPの位置のすぐ北側の橋梁の件でございます。説明会で質問等は委員の言われたとおりなんですけど、一級河川原川の改修は愛知県さんのほうがやっておみえですので、市のほうが答えるには若干不足になるかもしれませんが、当然、図面の左下のような形で川が3倍程度南側に広がるようになりますので、川の幅が広がる分だけ橋が長くなるということで、原川の計画の水位は今の計画では合瀬川の水位に当然左右されますので、高くなるということから橋自体も高くなる

ということで、取付け関係についても周辺にあまり広い道路があるわけではありませ
んの、そういった中で出来る限り安全性を保ち、さらには桁の厚さを一番考えられ
る範囲で一番薄いタイプのものでやっていくと愛知県さんのほうから聞いております。
以上です。

委員

はい、ありがとうございました。拡幅するほうが小牧高校側ということで、今説明
があったように3倍の容量ですが。僕が聞きたいのは、それとポンプの毎秒0.95
立方メートルというのは1時間当たりの雨量に対してはどれぐらいの容量までいいの
かということわかりますか。

事務局

5年確率ということで、1時間当たり最大52ミリの雨に対して、この毎秒0.9
5立方メートルがいるという計画になっておりますので、そういった能力ということ
になります。

委員

0.95立方メートルかける秒数だから、時間にすればいいってことですね。

事務局

1分当たり57トンということなので、1時間ですと60倍すればいいと思います。

議長

よろしいですか。はい、どうぞ。

委員

あまり5年確率すなわち1時間あたり52ミリの雨への対策であるとかだわって言
うと、5年確率よりもっと強い雨が降った場合の対策はどうなるのかや、短い河川だ
と雨量強度が換算値で70ミリとか60ミリとなり数字上52ミリを超えてしまうこ
となどにより、対策が不十分なように受け止められる場合があるよね。今回の場合は
排水区域ごとの整備が原則であり、現況と排水区域の計画とは若干整合しない部分は
調整していくよと。もう1つ、整備済みや予定の貯留施設について、1,300トン
とか733トンの雨水貯留量があるということだが、これをピーク時にどれぐらいカ
ットできるとか、どれぐらい下流の水位を下げられるのかを示して説明すると良いと
思います。これは単なる意見ですけど。

議長

よろしいですか。はい、どうぞ。

委員

今のご説明の中で、時間雨量が52ミリ対応とおっしゃったんですが、最近の集中豪雨でいうと70ミリとか60ミリとか降っています。これまで河川は50ミリ対応と言っていましたけど、それに対して桁外れの集中豪雨を私たちはくらっているわけですので、その点、52ミリ対応というのであれば、「大丈夫か」というこということが出てくると思いますね。正直な表現かもしれませんが。その当たりの説明はもう少し分解して意見書に対してご説明してもらえませんか、ちょっと難しいかなと心配になっておりますという意見です。

委員

よろしいですか。私よくわかりませんが、合瀬川の側溝、堤防下にずっと上から用水路がありますね。上から降った雨量はどうなるんですか。これがどこで決壊するかわかりませんが、この地区で決壊するということはないんですかね。上からの雨量は水路で排水したという考えでいいわけですね。

事務局

それでは、プロジェクターを使って今の場所の説明をしたいと思います。資料としては議案書3ページの図面になるかと思われます。今のご質問を確認させていただきますと、155号線の道路のあたりで溢れるというようなことですが、これ以外に上流でもそういう心配がないかという意味でよろしかったですね。

委員

はい。そうです。

事務局

概ね、こちらの排水区につきましては、委員の言われるように、川沿いに水路がありまして、それからこちらに入ってきて工場と今回、調整池を予定しております公園を通ってきている主要な水路になるんですが、一通り調べておりまして、今こちらのほうにですね、公園に1,300トンの調整池を作ることになりまして、いわゆる最大の雨量に対して概ね4分の1程度カットできるようなことになりますので、それをもって今のここの部分以外のすべて排水容量としては計算上あうということになっております。ただし、まだ若干、ここでは今の調整池だけではまだ少し溢れますので、溢れるところのかさ上げ工事等を予定しております。

具体的にここから溢れてくるということになりますが。今、こちらの排水区はですね、合瀬川の上に用水をとるためのゴム堰がありまして、これで両方の川の中の用水に乗せてそれぞれ常譜請だとか堀の内のほうに主要な用水を送っているんですが、これで堰き上げていますので、今、これより上流で常に水位が高い状態になっておりま

すので、既存の水路として堰より下流で区域は違うんですが、わざわざここまで動かしてきて、こうゆうふうに放流しているのが現状であります。

委員

合瀬川の水位のほうが高いんじゃないですか。高くなってくる可能性はありますよね。

事務局

当然、合瀬川の水位のほうが高くなってきますので、高くなってくる部分を考慮してかさ上げ高を考えるよう検討しております。

委員

かさ上げはいいですけど、ポンプ場へ入ってくる、今回の地区へ流入するポンプ場が負担する面積じゃないんですかね。

事務局

あくまでも今こちらで分断するということで、こちらの水は今の合瀬川のハイウォーターを考えても流せるということでやっていきますので、大輪ポンプ場はこの区域の排水域で大丈夫だということです。

委員

解りました。ありがとうございました。

委員

ポンプの容量について1立方メートル未満じゃないといけないような何か基準ってありましたか。もう1つ大きいポンプを付けておいたほうが安全だというふうに受け取ったのですが。

事務局

はい、先ほど愛知県の許可を受けてという話をしておりますが、市内の一級河川はすべて現在まだ5年確率での暫定整備で出来上がっている、若しくはこれから作るという状況ですので、実際にそれに放流先の能力に応じた分をそれぞれ小牧市の準用河川にしても下水道にしても、その分しか流すことを許可していただいていないというルールがありますので、そのルールに基づいて1トン未満にしております。単純に言えば面積が大きければ、その分だけはたくさん流せますけど、そういったルールの中の量が決まっているということあります。

委員

解りました。受け側の能力に応じてそれ以上流してもらったら困るということからきているということですね。

事務局

そうです。

委員

了解。

議長

他にご意見ありますか。それでは、ご意見が無いようございますので、「議案第1号 尾張都市計画下水道の変更について」は原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

(異議なしの声)

議長

ありがとうございます。ご異議なしと認めます。よって「議案第1号 尾張都市計画下水道の変更について」は原案のとおり可決をされました。

続きまして、「日程第2 その他」に入ります。事務局のほうで何かございましたら発言をお願いしたいと思います。

事務局

はい、会長。次回の都市計画審議会の開催予定についてご報告させていただきます。次回審議会におきまして、「尾張都市計画生産緑地地区の変更」を議案として付議させていただき予定をいたしております。また併せまして、愛知県が定めます都市計画のうち「尾張都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」の変更が検討されておりました、県より小牧市に対し意見照会があった場合につきまして、併せて諮問させていただきことを予定しております。開催日につきましては、誠に大変申し訳ございません。7月5日を予定させていただいておきまして、皆様方にはまた日程等の調整をお願い申し上げたいと思います。後日、改めてご案内申し上げますのでよろしくお願いいたします。

議長

以上をもちまして本日の議事日程は全て終了いたしました。長時間にわたりまして慎重審議をいただきましてありがとうございました。これをもちまして、平成23年度第1回小牧市都市計画審議会を閉会とさせていただきます。